

古き良き日本の伝統住宅に、現代の機能性と快適さを蘇らせる。

再生民家⑤

古民家再生には、現地再生、現地での曳家再生、移築再生、古材利用、とがあり、和田工芸は、その全てに対応できます。また、古民家情報のネットワークを持っているので、敷地にある古民家を探すことから始めることも可能です。

たたずまいの美しさが素晴らしい古民家ですが、暮らしにくい面もあります。文化財保存のように昔の状態を復元することもできますが、家族が楽しく快適に暮らせるよう設備や間取りを現代にあわせて改修する古民家再生を和田工芸は得意としています。

幸手市街地活性化プロジェクト 岸本家住宅主屋

再現
生地



かつて宿場町として栄えた幸手市の中心市街地を活性化させようと、市内にあって今は使われていない古民家「岸本家住宅主屋」が国の登録有形文化財に登録されたのを機に、現在の岸本家当主や周辺住民を中心に「旧日光街道幸手を感じる会」を立ち上げました。そして会では、宿場町の風情を生かした街づくりのシンボル施設としての再生を図ることとなり、弊社でも古民家再生のプロとしてこの会に加わり、岸本家主屋の再生工事を行いました。完成後、弊社では会の活動に積

極的に参加し、幸手市の活性化に協力していきます。
岸本家住宅主屋は、土蔵づくり2階建てと一部木造平屋建ての瓦葺き。日光街道の宿場町として栄えた幸手宿の醤油醸造所兼住宅として江戸時代末期に建てられたもので、外観は宿場町の面影を今も色濃く残し、屋根は左右に葺きおろした「切り妻造り」と、四方に葺きおろした「寄せ棟造り」の2つからなっています。再生工事は平成22年度「地域木造住宅市場活性化推進事業」として「登録文化財の町屋をまちなか活性化の拠点・核施設として整備する事業」として国交省の助成を受けて始まり、整理・

片付け→解体→曳き屋→地盤改良→基礎工事→曳き屋→揚げ屋→外壁→屋根→外観→内部造作と進み、完成に至ります。その間、整理・片付けボランティア、曳き屋公開、石畳づくり、見学会、お茶会、骨董市などいろいろなイベントを岸本家主屋を舞台に開催し、岸本家主屋と地域活性化のPRとともに、古民家再生への関心を高めることに努めてきました。

設計：和設計事務所

施工：和田工芸

完成：平成23年4月

延べ床面積：159.98 平方メートル



▲再生前の佇まい

▲曳き屋の準備

▲石も再利用して石畳をつくる